

順位	氏名（議席）	発言の要旨
14	石川 浩司（4）	<p>1. 学校の働き方改革における子供たちへの影響と地域連携について</p> <p>学校における働き方改革も2019年に文部科学省に推進本部が設置され進められてきました。同時期の2020年からは新型コロナウイルス感染症もあり、一昨年5月に5類に移行されるまで学校生活も制限され大きな変化がありました。現在も、新型コロナウイルスが落ち着きを見せ学校生活もコロナ禍前に戻るかといえば、全てが戻ってはおりません。これはコロナ禍の影響なのか、働き方改革の影響なのか、判断できない市民も多くいます。</p> <p>部活動の地域連携・地域移行についても働き方改革が要因の一つであり、学校生活の中でもスポーツ祭を取っても、コロナ禍前は終日行われていたものが半日に短縮され行われるなど、当時はコロナ禍の影響と思われたものが、現在は働き方改革の影響であるものも数多くあります。</p> <p>この大きな変化は子供たちへどのような影響があるのか、変化に対応し地域との連携を取れるように本年度から全ての学校に学校運営協議会が設置されています。</p> <p>今後も急速な少子化が進む中、15年から20年先の社会を予測し、子供たちがその時代を幸せに生き抜くことが大切だと考え、教育委員会としても今できることを着実に実行していくとのことですが、以上のことを踏まえ以下質問します。</p> <p>(1) 学校生活の中で時間をつくるためになくしたものと並びに減らしたものとなど具体的にどのようなものがあるのか。また、子供たちへの影響はないのか。</p> <p>(2) 文部科学省が取り組んでいる学校・教師が担う業務に係る3分類ですが、富士市としてすでに分類ができ実行されているのか。また、部活動の地域連携・地域移行など、地域との連携が大切だと考えるがいかがか。</p> <p>(3) 先生方の負担を軽減することも目的にした学校給食費の公会計化は、その後負担減になっているのか。</p> <p>(4) 学校の働き方改革により、現在の残業時間など目に見える実績は出ているのか。</p> <p>(5) 市の教育委員会として、大小関係なくどの学校でも、先生方の働く環境の改善をしながらも、子供たちが働き方改革による影響を受けることなく健やかに育つには何が大切か。また、自立をどのように浸透させていく方針か。</p>